

国立公園における宿舎事業のあり方に関する検討について

1. 背景・目的

政府の「明日の日本を支える観光ビジョン」（2016年3月）で掲げた2020年に訪日外国人4,000万人を目標とする取組の中で、環境省では国立公園への外国人来訪者1,000万人を目標とする「国立公園満喫プロジェクト」に取り組んでいる。

満喫プロジェクトにおいては、地域の自然や文化などの価値を適切に評価する富裕層など国立公園への新たな客層の誘客を図り、地域資源の新たな魅力や価値を創出し、地域の活性化につなげていくため、上質な宿泊施設の誘致が重要な課題となっている。

この課題への対応を検討することを契機として、国立公園の宿舎事業が現在直面している様々な課題についても併せて検討し、国立公園の宿舎事業のあり方について、環境省の考えを整理した上で具体的な対応策を示すことを目的として有識者による検討会を開催する。

2. 基本的な考え方

- ・人の暮らしと共にある日本の国立公園を世界中の旅行者を惹きつける魅力的な観光資源として提供し、自然との共生のモデルを世界に示す
- ・国立公園の豊かな自然を保全しながら地域の観光資源として積極的に活用し、地域の活性化を図るとともに、得られた利益を保全に還元する保護と利用の好循環を実現することにより国立公園の資源管理を充実させる
- ・上記の観点から国立公園の宿舎事業のあり方を示し、今後の対応策について検討

3. 検討課題

(1) 上質な宿泊施設の誘致

- －国立公園における幅広いニーズにあわせた利用の多様性の必要性
- －国立公園にふさわしい上質な宿泊施設とは
- －どのように誘致を進めていけばよいか

(2) 老朽化・廃屋化した民間施設への対応

- －国立公園内の廃屋が顕在化したエリア等をどのように再生していくべきか
- －新たな廃屋化を防ぐためにどのような方策が考えられるか

(3) 多角化する宿泊施設の経営方法への対応

- －所有、経営、運営が分離した施設や分譲型ホテル等に関する公園事業上の課題について